

うっしっしいー情報2014

4月市



豊岡農業改良普及センター

4月9日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が54万7千円、雌が48万でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	9	0.985	505,920	10	0.846	452,412	19	477,758
篠山	1	1.056	589,680	4	0.762	479,790	5	501,768
丹波	15	0.955	549,216	20	0.832	461,160	35	498,898
朝来	7	0.940	531,051	3	0.933	546,480	10	535,680
播磨	15	0.966	545,832	5	0.863	467,424	20	526,230
美方郡	32	0.969	568,350	41	0.808	486,817	73	522,557
豊岡	6	1.020	572,580	17	0.892	498,706	23	517,977
養父	9	0.953	524,400	4	0.780	442,800	13	499,292
摂津・神戸	2	1.001	589,140	1	0.869	525,960	3	568,080
県北C	4	0.883	485,190	-	-	-	4	485,190
市場全体	100	0.966	547,474	105	0.834	479,787	205	512,805

4月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳山土井	18	0.993	584,940	21	0.824	495,206	39	536,622
2	芳悠土井	11	0.984	574,462	16	0.899	510,368	27	536,480
3	丸宮土井	12	0.913	556,560	9	0.852	494,400	21	529,920
	総計	100	0.966	547,474	105	0.834	479,787	205	512,805
4	福芳土井	12	1.037	542,250	16	0.872	484,043	28	508,989
5	丸富士井	24	0.920	537,975	25	0.770	453,082	49	494,662
6	千代藤土井	7	0.973	524,726	7	0.834	449,589	14	487,157
7	照忠土井	5	0.969	510,192	6	0.808	450,360	11	477,556

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑	
1	芳山土井	A++	A++ → A+++	A+++	A+++	D → C	A+ → A++	A+++ → A++
2	芳悠土井	A+	A	A+	B → A	A	A+++	
3	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++	
4	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A+ → A	
5	丸富士井	A	A++	C	C	A	A++	
6	千代藤土井	B	A++	D	A	A+	A+++	
7	照忠土井	B	A++	B	A+	A++	A+	

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成26年01月現在)

「暑熱対策」を考えてみませんか？

ここ数年、毎年のように「今年も暑いなあ〜」という声が良く聞かれます。人間でも暑い夏、毛皮をまとい、胃の中でエサを発酵し続ける牛達の暑さは…考えずともお解りですよね。

そこで今回は、牛たちに夏場の暑さを無事に乗り切ってもらうための「暑熱対策」についてお話ししたいと思います。農場でのヒントになれば幸いです。

(1) 牛はどこまで暑さを我慢できるのか？

牛にとって「好ましい気温（適温域）」と「生産性に影響を及ぼす気温（生産環境限界温度）」を表1に示しました。

牛が「気持ちいい」と感じられる温度は意外に低く、その範囲も狭いことがうかがえます。牛舎内の気温が30℃を超える（牛にとって暑すぎる）と、呼吸数の増加、食欲の減退や繁殖・肥育成績の低下が見られます。

更に同じ気温であっても湿度が高くなると、より暑熱によるストレスを感じやすくなります。

表1. 肉用牛の適温域と生産環境限界温度

	適温域 (°C)	生産環境限界温度 (°C)	
		低温	高温
哺乳子牛	13~25	5	32
繁殖牛	10~15	-10	30
肥育牛	15~25	5	30

※生産環境限界温度：この温度より上がる（下がる）と牛の活動に影響が出る温度

(2) 牛舎内でできること～換気扇・送風機での送風

皆さんの牛舎でもすでに取り組みされているとは思いますが、今一度牛舎内の送風について考えてみましょう。

牛舎の中に熱気や湿気が籠っていても折角の送風効果を得られません。整理整頓をし、牛舎内に「新鮮な」風の通り道を作りましょう。その時に、送風機についているクモの巣や埃も取ってくださいね。送風効率が良くなりますし、そのことで電気代を抑えることもできます。

次に、体感温度を下げるため、牛の身体（特に汗をかき易い首から肩付近）に風が当たるよう送風機の風向きを調整しましょう。体感温度は、秒速1mの風で6℃、秒速2mで8.5℃下がると言われています（表2）。風速は、風湿度計で図ることができます。確認したい方は、お近くの普及センターまでお問い合わせください。

表2. 風速による体感温度の変化

環境温度 (°C)	風速 (m/秒)	体感温度 (°C)
28.0	0.5	23.8
	1.0	22.0
	2.0	19.5
32.0	0.5	27.8
	1.0	26.0
	2.0	23.5

(3) 牛舎の外からできること

<その1> 直射日光を防ぎましょう

牛舎の南面、西面に落葉樹を植えて日陰を作ったり、寒冷紗やつる性植物を植えて、畜舎に射し込む直射日光をできるだけ遮りましょう。なお、寒冷紗等の設置は風通しが悪くならないようにしましょう。

<その2> 屋根の熱気を抑えましょう

夏場の日中の屋根は、80℃もの高温になる場合があります。屋根が焼けることによってその熱気が牛舎の中にまで浸透し、送風機で風を送って温度を下げるつもりが、逆に熱風を牛の身体に吹き付けることにもなりかねません。

そこで、①屋根にドロマイト石灰や断熱性塗料を塗って表面を白くする、②屋根にスプリンクラーなどの散水装置を設置するなどにより屋根の熱気を軽減させましょう。

屋根を白くすることで約5℃、散水することで約17℃牛舎内側の屋根温度を下げられた例もあります。



直射日光を遮る緑のカーテン



屋根へのドロマイト石灰塗布

(4) エサ箱やウォーターカップの管理

気温が高くなると、エサ箱やウォーターカップに残っているサイレージや濃厚飼料がカビたり腐敗したりしやすくなります。こまめに清掃を行い、いつでも清潔なエサや水を摂取できるようにしましょう。

また、暑熱時は牛の飲水量40~50%増えるとも言われています。水圧や流水量をチェックし、「全部の牛」が「飲みたいとき」に「飲めるだけ」の水量を確保しましょう。

(5) 飼料給与の工夫

暑い時期には、牛達の食欲が減退します。その上、呼吸数の増加や発汗などにより、エネルギー要求量やミネラルの排泄量は増加します。このことが牛の生産性を低下させる原因となります。

そこで、①涼しい時間帯にエサが食べられるよう給与時間や給与回数を工夫する、②良質で消化性の高い飼料を給与する、③粗飼料を細断して食べやすくする、④ビタミンやミネラルを給与する、⑤重曹などの緩衝剤を給与し、ルーメン内のpH低下を抑える等により、採食量の低下を防いでください。

～おわりに～

「暑熱対策をするにしてもお金がかかるしなあ…」という声が聞こえてきそうですが、ある程度の費用が必要なものもあれば、工夫次第であまり費用や手間をかけずに実施できるものもあります。いくつかの技術を組み合わせることで、より効果的な対策を行うこともできます。まずは、ご自身の牛舎を見回してできることから始めてください。

暑い夏はすぐそこまで来ています…